



羅針盤

Market Forecasts by Y. san - 9月 -

8月予測の自己評価 鉄スクラップ:○ 銅:× アルミ:×

鉄スクラップ

8月はスクラップ価格の指標となる東京製鉄宇都宮工場特級価格が、50,000円/トンでスタート。23日にトン1,000円UPして、29日現在は51,000円/トンでした。ドル高円安にもかかわらず、トルコや韓国の輸出価格が低調なので、9月は横ばいと思われる。

銅

8月は月初から国内銅建値が大幅に50,000円/トンUPで1,310,000円/トン、LME 8,800ドル/トンで始まり、途中細かく下がりましたが29日現在、国内銅建値は1,270,000円/トン、LME 8,380ドル/トン台。中国の需要回復期待により、9月は多少上がると思われます。

アルミ

LMEは2,190ドル/トン台からスタート。29日現在LME 2,120ドル/トン台と大きな動きはありませんでした。9月はコロナが収まり家飲みが減ったため、トラック関連の押し出し材の復調、建材の公共案件の伸びに向かい上がると思われます。

産業廃棄物

産廃業界は人手不足が深刻化し、業務効率で産廃の委託契約書の電子化が進んでいます。食わず嫌いで、電子化導入後も紙契約メインの会社と、電子契約を前面に打ち出し進める会社があります。電子契約の利点はコストです。印紙不要、郵送不要。これだけで導入の価値があります。紙の契約が懐かしくなる時が来るでしょう。

Topics

データで見る

産業廃棄物処理業の許可等の状況

今回は、年に一度の恒例となっております産業廃棄物の処理業の許可、処理施設の設置等に関する状況を、環境省の報道発表資料(令和3年度の実績データを令和5年5月30日に発表)を参考に、昨年5月号掲載の更新版としてお伝え致します。排出・処理に関する報告は、次号といたします。

令和4年4月1日現在における産業廃棄物処理業及び特別管理産業廃棄物処理業の許可件数とその内訳を図-1と図-2で示します。

また、その合計件数の経年変化を図-3に示しました。経年変化中で22年から23年で大幅に減少したのは、廃棄物処理法の改正により、許可が合理化されたことによります。

図-1 産業廃棄物処理業の許可件数

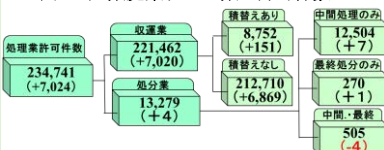


図-2 特別産業廃棄物処理業の許可件数

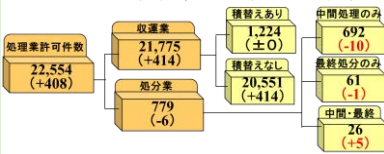
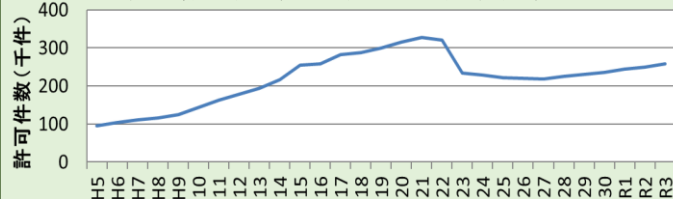
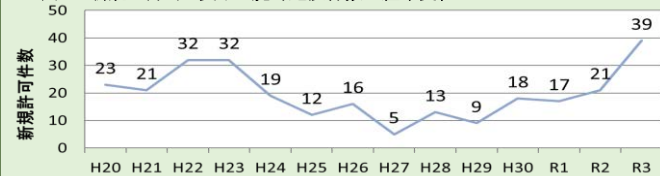


図-3 特別管理を含む産業廃棄物処理業の許可件数の経年変化



令和4年4月1日現在の中間処理施設の設置許可件数は、全体で19,413件となっており、前年度比では1件(0.01%)増加となっております。内訳は、木くず又はがれき類の破碎施設が約55.1%、汚泥の脱水施設が約13.8%、廃プラスチック類の破碎施設が約11.8%等でした。木くず又はがれき類の破碎施設の新規設置許可件数は282件あり、新規許可件数の半分以上を占めています。また、新規に許可を受けた焼却施設件数の経年変化を図-4に示しますが、令和4年4月1日現在の焼却施設の新規設置許可件数は39件であり、前年度比で18件の増加でした。

図-4 新規に許可を受けた焼却施設件数の経年変化



出典:産業廃棄物処理施設の設置、産業廃棄物処理業の許可等に関する状況 <https://www.env.go.jp/recycle/waste/kvoninka.html>

編集メモ

*夏が終わりません。今年の東京は猛暑日21日を越しました。9月も当分この暑さが続くと思われも鈍りますが、夜の郊外ではやはり虫の声が聞こえるようになりました。ただ地球規模での温暖化は危機的との見解も出てきており、現状では、SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」の項目に関しては目標達成している国は一つもないとのこと。この先の取組が重要なのでしょう。今号トピックス「産業廃棄物処理業の許可等の状況」図-4では、新規許可の焼却施設が増えています。新設時に高効率発電設備を導入すれば使用電力量に伴う二酸化炭素の排出量削減に貢献できるのでしょう。その前段階、回収時は「混ぜればゴミ分ければ資源」です。協力しましょう。

Series

新たな挑戦

営業部 高見澤 一輝



高校まで野球を続けましたが、そのまま進学した東海大学では**ライフセービング部**に入部しました。動機は同じ野球部だった奴に誘われたのですが、日焼けし鍛えられてかっこいいと思ったからです(笑)ライフセービングとは簡単に言うに海にいる監視員です。実は大会も海の大会、プールの大会など年に1回ずつ行われます。種目はレース形式で泳ぐ速さやボードを漕ぐ速さ、砂浜を走る速さを競います。リレーもありすべてが混合した「アイアンマンレース」というのも存在します。

最初は不純な動機で入部しましたが、練習は季節に関係なくプールや海で行われ、海の朝練は学校の始業時間前、6時半から海でトレーニングでした。勿論冬も関係なく行われ「寒い」ではなく「寒すぎて痛い」という感覚でした。ずっと野球をやってきたので泳ぎは25m程度で、最初はプールの練習についていけるのがやっとなりました。海の監視員はプールと違い自然が相手です。風や満ち引きの関係などによって徐々に変化します。更にクラゲやエイなどに刺された方や熱中症の方の対応、迷子対応など、海だけではなく陸にも気を配りその状況に応じた柔軟な対応が求められ、色々な資格が必要でした。副監視長になった3年生の時に全ての資格を取りました。お蔭で近くの消防の方や海上保安庁の方との意見交換会など様々な経験をすることが出来ました。

冒頭にお話した通りライフセービングは年に2回大学単位で競い合う大会があります。一番盛り上がるのは9月の海のインカレです。9月の大会なので台風接近で大荒れの中大会をやったこともあります。自分達の代になり今まで表彰台に立ったことも無いので、大学日本1を目標に日々トレーニングを行いました。水泳部上りが1人しかいなかったのが泳力に不安があったもののボードレースやランレースなどは上位を狙えるレベルでした。その大会、初日は後輩の頑張り等もあり苦手なスイムを上位入賞し、1位で折り返しました。2日目は台風の影響もあり大荒れの中行われ、得意のボードレースは途中まで1位でしたが後続が波に乗りそのまま逆転され3位にもなれませんでした。これがきっかけだったのかは分かりませんが、2日目はバツとなく、総合順位で日本大学に抜かされ、結果2位になってしまいました。表彰式で涙は出ましたが悔し涙ではなく、皆ベストを尽くしやり切った涙だったと思います。高校最後の野球では夏決勝で日大鶴が丘に負け、大学最後の大会で日大に負け、2回連続日大に負け2位。このことの方がややもやしました。日大カラーはピンクなので、あのピンクを見るのと今でも複雑な気持ちになります(笑) 人命救助にかかわれたこと、大学で違うことにチャレンジし新しい仲間に出会えたこと。辛いことや辞めようと思ったこともありましたが、学生生活の全てが私の財産になりました。この財産は現在の仕事の上でも大きな力となっています。高校・大学まで進ませてもらい、好きなことをやらせてもらった両親には心から感謝です。再来年結婚30周年なので海外旅行をプレゼントしようと思っています。(了)

監視中の筆者

